

## ●1990

実生活がそこそこ安定していたためか、このころの記憶（オウムに関するに限らず）があんまりない。こういう時はオウムの道場に行くのも月に2、3回だったんじゃないかと思う。麻原らが出馬した2月の総選挙も、まったく手伝わなかった。一度だけ荻窪かどっかの駅前で演説があるというので聞きにいったくらいか。正直いってこの選挙戦でのパフォーマンスの数々は、私の口をさらにさらに固くするものであった。笑うに笑えない複雑な、なんてことは当時意識するはずないから、たぶん、深く考えずそーゆーもんなんだ、と流しにかかっていたんだと思う。

選挙は、オウム大本営発表の情勢報告を信じ、麻原は当選するもんだと考えていたが、結果はご存じの通り惨敗。しばらくしてA4の紙1枚に印刷された「衆院選についてのご報告」が送られてくる。いわく「選挙で不正が行われたことは間違いありません」。これについて私はどう考えたかという、なかば信じ、なかばそんなことありえるのかなあ、と疑った。と、書くとき少し現在からのひいき目になり過ぎるので7割くらいはオウムの言葉をそのまま信じた。ただ、実際にはそういう不正は行われていなかった、と想定しても、オウムに対する不信にはつながらなかった。どういうことかという、「不正が行われた」と言うことで信徒に対しなんらかの効果を意図しているかもしれないと思ったのである。

こういう、言ってることをそのまま受け取るのか、それともなんらかの意図があってそのように言っているとするのか、はっきりさせない曖昧な解釈をする姿勢は、麻原の予言に対してもそうであった。というか、私にとって麻原の予言は、「予言」というにはあまり限定的でなく曖昧な言い方をされているように感じられ、そのへんが物足りないものであった。それは「予言」という神秘的な力の現われというより、経済予測だとか天気予報のようなものとそれ程変わらないものに見えたのである。私は直接聞いていないのだが、1995年の年頭、ロシアからのラジオ放送を通じて神戸の地震を「予言」したそうで、それくらい見事に突発的な出来事を、地域時間を限定しバシバシ当てるような「予言」をしていたら、私ももっと熱心に修行していただろうし出家さえしていたかもしれない。また、1988年の富士総本部道場開設のときに、「これで予言されていた富士の噴火を押さえることができた」、みたいなことを言っていたことがあり、そんなこともあって、予言された未来は確定的なものというわけでもなさそうだという風にも思っていた。

後に、オウムは選挙後変質した、なんてことがよく言われるようになったが、当時の私にはほとんどそのようなことは感じられなかった。かなり重要な意味を帯びていたらしい「石垣島セミナー」のことも事前に知られることがなかったような幽霊信徒がそのころ不思議に感じたことと言えば、たまには道場に行かねば、と思って世田谷の道場に行ってみると、出家信者が集中修行をしているとかなんとかいう理由で、閉鎖されてたときが度々あったことくらいである。

たまに行っても開いてない、となるとただでさえ道場に行かない足が、ますます遠のいていく。この年の後半あたりからしばらく、半年ごとにまとめて払う月の会費をもっていくときくらいしか道場に行かなかったんじゃないかと思う。オウムとの繋がりは毎月送られてくる教団月刊誌「マハーヤーナ」を読むことくらいになっていった。

## ●1991

このころ実生活のほうでは、上京以来もっていたある野望をなんとなく捨てていた。

あきらめた、といった劇的なものじゃなく、どうもだめそうだなあ、ってな感じ。そのせいか生活に惰性的な色合いが濃くなっていた。

5月、11月と半年ごとまとめて払い込んでいた月会費も、それまでは必ず道場に直接もっていったのが、7月26日の日付で銀行振込になっている。私が怠けたのかオウムが閉まっていたのかははっきりしない。どちらにしろ、夏あたりまではかろうじてオウムとつながっている状態であったのは間違いない。

9月だったか10月だったか、私のアパートに初めてオウムの出家者がやってきた。当時たしか東京支部長だった、アーナンダこと井上嘉浩である。当然オウム内ではトップクラスの有名人だったからかなり驚いた。彼もまたおだやかな非常にあたりのやわらかい人であった。道場にもまるで行かなくなっていた私は多少後ろめたい思いで彼の話を聞いた。言っていたことは、修行の大切さとかそういった麻原の著作物を読んでいればわかりきっていることばかりだったと思う。とりたてて終末を強調するようなこともなく、はげましに来た程度の訪問だった。部屋に電話をおいたことを、このとき初めてオウムの人に知られた。隠していたわけではなくって、単にオウムとのコミュニケーションが無かったのである。

停滞していた生活に、この「アーナンダ大師」というビッグネームの訪問と度々かかってくる電話での修行への誘いは、このあとの最もオウムにいれ込んだ時期へとつながるきっかけになるものであった。

11月27日、手始めに、なんらかの目的や誰かの催促によるものではない、ただの布施として20万円を振り込んだ。

[1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#)